

小兒進行性惡性貧血症ノ一例ニ就キテ

岡山縣病院 小兒科

正井發二

大人ニ於ケル進行性惡性貧血症ハ敢テ稀有ナラズト雖モ小兒期ニ於テハ極メテ其例ニ乏シ即チ今我邦ニ於ケル其報告例ヲ見シニ大人ニ於テハ森安連吉氏ノ一例、前田松苗氏ノ三例、中村平三郎、河田好之兩氏ノ一例、佐々木達氏ノ十二例、淺野光雄氏ノ一例、上田敬治氏ノ一例、稻田博士ノ二例、賀屋博士ノ一例(大正四年)合セテ二十二例アリ、翻テ小兒期ニ於テハ療病院雜誌(明治十二年四月發行)ニテ報告セル某氏ノ一例、佐々木達氏ノ十一歲男子ノ一例、及佐田大吉郎氏ノ十二歲男子ノ一例ノ三例ニ過ギズ之ヲ外國ノ例ニ求ムルモ亦少ナシ、斯クノ如ク小兒期ニ於ケル進行性惡性貧血症ハ其數頗ル僅少ニ屬ス、是レ爰ニ杜撰ナル實驗ノ大體ヲ報告シ以テ諸大家ノ高教ヲ乞ハントスル所以ナリ。

患者 七年一箇月ノ男子 佐○木○造。

遺傳 兩親共ニ健康、吳服商ニシテ中流ノ生活ヲ營ミ又患者ノ生活狀態

モ非衛生的ナラズ父ハ飲酒、喫煙等ノ癖ナク其他血友病、惡性腫瘍並

ニ黴毒、結核ノ遺傳ヲ證セズ。

既往症 患者ハ獨リ子ニシテ七箇月ニテ出産、麻疹、種痘ハ既ニ經過ス

生後一箇月ハ母乳營養(少量充填リテ與ヘタリト)其後乳粉ニテ養フ、

一般發育過程ハ稍々遲延シ滿二年ニシテ步行ヲ始ム生來虛弱ニシテ二

歲ノ時乳母車ヨリ落チ左胸殊ニ左胸側ニ挫傷ヲ受ケ其部ハ後ニ至ルモ

陥沒ヲ殘セリ其後麻疹ヲ經過シテ右外斜視ヲ殘ス三歲ノ時百日咳ヲ經

正井 小兒進行性惡性貧血症ノ一例ニ就キテ

過ス生來感冒ニ罹リ易シ其他ノ傳染病、寄生蟲病、麻刺里亞病、鉛使
用等ノ既往症ナシ。

現病訴 主訴、蒼白倦怠心悸亢進。

大正七年五月頃ハ三輪車ニ乗リテヨク遊ビ居タリシモ七月初メヨリ顏

色蒼白僅カノ體動ニヨリ疲勞ヲ感シ心悸亢進ヲ訴フ同時ニ食氣不振、
全身倦怠ヲ訴フ常ニ輕度ノ頭痛アリテ又時々眩暈ヲ訴フ便通稍々秘結

ニ傾キ睡眠安靜。

症狀並ニ經過

體格 中等稍々羸瘦ス。

正井・小兒進行性惡性貧血症ノ一例ニ就キテ

赤血球ノ種類

赤血球大小不同症 (Anisocytose)

赤血球變形症 (Poikilocytose) (+)(+)

雜色嗜好赤血球

有核赤血球

(+)證明スルヲ得ズ

白血球ノ種類別

中性多核白血球

二五・六%

「エオザン」嗜好細胞

ナシ

大單核白血球

ナシ

大淋巴球

一一〇%

小淋巴球

七一・八%

移行型

〇●八%

肥胖細胞

〇●八%

第二回血液検査(九月九日死前一日)

血液ハ甚稀薄ニシテ「デフクグラス」ニ塗抹シ難シ

赤血球數 六十萬

乾燥標本所見

赤血球大小不
症

赤血球變形症

第一回採血 (九月三日)

心臓濁音、上界第三肋間、左界左乳線、右界胸骨中央線、頸部ニ著明
ノ獨樂音ヲ聽ク。

血液検査

血液稀薄ニシテ水様止血甚困難ナリ。

一五・% (nach Fleischl-Miescher)

四十四萬八千

赤血球

白血球

赤血球ニ對スル白血球ノ比 百三十一對一

色素係數

一・八六 ($\frac{90}{500000} = 1\text{トシテ}$)

白血球種類

二枚ノ標本全視野ヲ検スルモ白血球數僅少ニシテ百分率ヲ以テ

表スヲ得ズ此視野全面ニ於テ唯

「エオジン」嗜好細胞

四十箇

中性多核白血球

五箇

大淋巴球

二箇

移行型

一箇

「エオジン」嗜好細胞

三箇

要スルニ白血球減少症殊ニ中性白血球減少症ノ存在ヲ推定スルヲ得。

消化器 常ニ食氣不振口臭甚シ動モセバ嘔吐腹痛ニ傾キ便秘勝ニテ屢々

浣腸ニヨル、咽喉異常ナシ、舌ハ蒼白黃色、舌苔アルモ濕潤、齶齒多ク
ハツチソソノ歯牙ナシ齒齦出血時々アリテ止血甚困難、腹部膨満通

常壓痛抵抗ナシ痔疾ナシ。

肝臟ハ右乳線ニ於テ肋骨緣ヲ出ルコト約三纏硬度稍々増セリ。

腺系統 脾臟觸知セズ頸部淋巴腺豌豆大ノモノ稍々多數触ル、外、他ニ

腫脹ナシ、肘腺ノ肥大亦ナシ。

神經系統 運動神經及知覺ニ異常ナキモノ、如シ聽器聴音、味覺ニ
障礙ナシ。

眼、眼瞼結膜甚シク蒼白瞳孔ノ擴大ナシ、乳頭蒼白、網膜血管狹細遂

ニ網膜出血ヲ證明スルヲ得ズ(眼科三谷氏検査)、右眼外斜視ヲ麻痺經
過後ニ遺セルバ前述ノ如シ。

膝蓋腱反射其他ニ異常ナシ。

正井—小兒進行性惡性貧血症ノ一例ニ就キテ

尿検査 透明「アルカリ」性、蛋白「デアツオ」「インザカン」反應總テ陰性、膽汁色素、糖陰性。

「ウロゼリン」(分光鏡検査)證明スルヲ得ズ。

顯微鏡的検査陰性。

糞便検査 稍々黒色ヲ帶ブルモ血液反應陰性(當時鐵劑ヲ使用シツ、ア

リシニヨルナランカ)一回蛔蟲卵ヲ少數發見セル外其他ノ蟲卵ナシ。

ヒルケー氏反應 隱性。

ワノセルマン氏反應 患者衰弱甚シクタメニ検査シ得ザリシモ既往症、

他覺的検査ニ於テ黴毒ヲ疑フ根據ナシ。

最後ニ最遺憾トスル所ハ剖見スルヲ得ザリシ一事ナリ。

大正七年八月二十日入院同二十八日迄常ニ就牀セルモ一般ニ神氣比較的
良ニシテ牀上ニテ幼年畫報等ヲ手ニセルヲ見ル。

八月二十九日 昨夜うごんヲ食セシヌメカ嘔吐腹痛ヲ訴ヘ且ツ齒齦ヨリ

少量ノ出血アリ。

八月三十一日 嘔吐二回恶心アリ食氣殆ドナシ眩暈ヲ訴フ。

九月三日 食氣稍々増シタルモ時々齒痛ヲ訴フ。

九月四日 左上頸大齒及小白齒ニ相當スル齒齦出血甚シク止血困難
ナリ。

九月七日 左脛骨部ニ帽針頭大ノ皮下溢血ヲ發見ス。

九月八日 脣部ノ疼痛、咽頭痛ヲ訴フ。

九月九日 今朝來幻覺様ノ訴ナシ加フルニ嘔吐數回、肝臟ハ右脇
骨緣下約四纏ニ觸ル左大腿中央ニ皮下溢血發見、脈搏頻數ノ度ヲ加ヘ

正井—小兒進行性惡性貧血症ノ一例ニ就キテ

一一二

一般狀態不良。

ナリ心力次第衰へ諸症險惡加フルニ肺ニ所々乾性水泡音ヲ聽ク惡心

九月十日 顏色益々蒼白ノ度ヲ加ヘ嘔心嘔吐常ニ存ス。

尙ホ存シ口角ヨリ粘液様物ヲ吐出ス而シテ二回珈琲殘渣樣物ヲ吐ク遂

九月十一日 昨夜來胸内苦悶甚シク呼吸頻數寧「ヂスプノイッシュ」ト

ニ午後二時鬼籍ニ入ル。

之ヲ要スルニ本例ニ於テ其既往症及臨牀的所見ヲ總括シテ考フルニ大略次ノ四項ニ歸着ス、即チ

(一)特有ナル血液検査ノ所見。

一、赤血球及血色素量共ニ著シク減少シ殊ニ赤血球ノ減少、血色素量ニ比シテ減少スルコト甚シク常人ノ十分ノ一以上ニ達シ其爲メ貧血症タルニ拘ラズ血色素係數ハ反ツテ増加シ一・八六ヲ示スコト。

二、白血球モ亦減少セルコト。

三、白血球ノ種類ニ於テ中性多核白血球ハ二五・六%ニ減ジ「エオチン」嗜好細胞及大單核白血球ハ缺如シ之ニ反シ淋巴球ノ増加ヲ見ル。

四、赤血球ニ於テ本症ニ比較的重要視セラル、有核赤血球殊ニ巨大有核赤血球ヲ證明スルコト能ハザリシト雖時トシテ證明シ得ザル場合ノアルコトハ既ニ諸學者ノ承認セル所ナリ。

赤血球大小不同症及赤血球變形症ノ存在スルコト。

雜色嗜好赤血球亦存在スルコト。

塩基性顆粒赤血球證明セザルコト。

之ヲ案ズルニ、血液検査既ニ本症ノ末期ニ近ヅキテ行ヒシヲ以テ骨髓反應力ノ非常ニ微弱ニシテ赤血球新生

不全ノ結果、カ、ル像ヲ示セシモノニアラザルカ、(所謂形成機能脱失病型?)

(二)一般重症貧血ニ特有ナル自覺症狀ヲ有シ之ニ歯齦出血、皮下溢血、頑固ナル消化器障礙ヲ伴ヒ白血病其他一般貧血症ニ見ルガ如キ淋巴腺ノ腫大ヲ缺キ其經過頗ル進行性ニシテ而モ惡性、アラユル處置ヲ行ヒシモ遂ニ死ノ轉歸

ヲ取リシコト。

(三) 一種固有ノ蠟様蒼白色ヲ呈シ而モ黃疸ヲ證明セザリシコト。

(四) 患者ハ二歳未満ナラザルコト。

右ノ事實ヨリシテ診斷上最モ有力ナル剖檢ヲ缺クト雖、本症ハ小兒期ニ稀有ナル進行性惡性貧血症ナリシトテ差支ナキモノト信ズルモノナリ。

原 因

由來進行性惡性貧血ハビールヌル氏(1864)ノ初メテ報告セルモノニシテ其原因ニ至リテハ學說紛々トシテ歸着スル所ヲ知ラズ即チ

一、エールリッヒ一派ハ本症ハ全ク他ノ貧血ト異ナルヲ唱導ス、即チ諸種ノ原因ニヨリ來ル毒素ニヨリ起ルモノニシテ骨髓ノ一種獨特ナル形態上及官能上ノ變化ヲ有セルモノトナセリ。

二、ファン・ノールデン等ハ惡性貧血ニ於テ見ル骨髓ノ解剖上及官能上ノ變化ヨリシテ普通ノ貧血ト大差アルモノナラズ只數量上ノ差異ノミトナセリ。

三、グラウヰツハ臨牀上重キ貧血ノ經過ヲトリ而モ生體並ニ死體ニ於テカ、ル血液變性ノ原因ヲ發見シ能ガル總テノ貧血ヲ總稱セリ。

四、フンターハ之アヂソン氏貧血ト稱シ、尙ホコノ原因未ダ明カナラザルヲ以テ特發性惡性貧血 idiopathische Pernicöse Anämie 或ハ原因不明ノ慢性溶血性貧血 chronische haemolytische Anämie unbekannter Ursache ヌ稱セリ。

五、アル學者ハ本病ヲ獨立セル疾患ト見做シ素因ニ歸セントス。

左ニ所謂原因ト稱セラルベキモノヲ舉グ併テ本例ニツキテ攻究センニ、

(一) 諸種ノ寄生蟲 敷回検査ノ中唯一回ノ検査ニ於テ少數ノ蛔蟲卵ヲ見タリト雖、直チニ之ヲ以テ原因ト見做ス能

正井 小兒進行性惡性貧血症ノ一例ニ就キテ

一二四

ハズ殊ニ最屢々原因トモ見做サルベキ廣節裂頭繛蟲、十二指腸蟲卵ヲ發見シ得ズ。

(二)徽毒 ワツセルマン反應ヲ行ヒ得ザリシト雖、遺傳ナク、患者ニ毫モ徽毒ノ症狀ヲ證明セズ。

(三)消化器病 食氣不振、便秘、嘔吐等アリシト雖、之ハ原因ト考フルヨリ寧ロ部分的症狀ト考フル方至當ナラザルカ、又臨牀上慢性腸潰瘍ヲ證明セズ。

(四)慢性出血 齒齦出血、皮下溢血アリシモ唯末期ニノミ存在セリ。

(五)非衛生的生活 本患者ニ認メズ。

(六)骨ニ於ケル腫瘍 剖檢ヲ缺クヲ以テ如何トモ云フ能ズト雖、少クトモ臨牀上ニ於テハ腫瘍ヲ認メズ。

(七)重症麻刺里亞 既往症ニナシ。

(八)鉛中毒 患者鉛ヲ使用セシコトナシ。

(九)癌腫 勿論ナシ。

(十)敗血症及慢性腎臟炎 共ニ既往症ニナシ、血液所見、尿所見亦之ヲ否定ス。

(十一)精神上、肉體上ノ過勞ナシ。

(十二)傳染病、痔疾ナシ。

(十三)齶齒 多數アレドモ之ニ原因ヲ歸シ難シ。

(十四)妊娠 本患兒ハ男兒ナリ。

右諸原因中、原因トモ認ムベキ有力ナルノナシ、即チ本例ノ原因ハ遂ニ證明シ得ズ或ハ彼ノアイヒホルスト等ガ

嘗テ唱ヘシ所謂真正ノ惡性貧血症ニアラザルカ、識者ノ叱正ヲ得バ幸甚何ゾ之ニ過グルモノアラン。

終リニ臨ミ常ニ御懇篤ナル御指導ヲ給ハリシ志摩教授並ニ眼底検査ノ煩ヲトリ下サレシ眼科三谷氏、血液検査ニ
多大ノ御盡力下サレシ朝川氏ニ向ツテ謹デ謝意ヲ表ス。